

しあわせ倍増プラン2013 平成26年度達成状況報告書

(内部評価)



平成27年9月

さいたま市

「しあわせ倍増プラン2013 平成26年度達成状況報告書」目次

1	達成状況の概要	1
	(1) しあわせ倍増プラン2013の進行管理の概要	1
	(2) 平成26年度達成状況評価	1
	(3) 評価結果の概要	2
2	各事業の達成状況	7

1 達成状況の概要

(1) しあわせ倍増プラン2013の進行管理の概要

「しあわせ倍増プラン2013（以下「倍増プラン」という。）」は、市長が掲げた「新しあわせ倍増計画」をもとに、着実に推進していくため、平成25年度から平成28年度の4年間の計画期間とし、10分野60項目111事業により構成される行政計画として、平成25年12月に策定しました。倍増プランの各事業には、4年間の具体的な数値目標や取組内容を掲げるとともに、事業達成時に市民生活にどのような効果があるかも示しています。

平成25年度については、市が自ら内部評価を行い、平成26年9月にその結果を公表しました。

平成26年度については、前年度同様に内部評価を行うとともに、平成27年3月に、市民、有識者等からなる「市民評価委員会」を設置し、倍増プランに掲げた事業の進捗状況や成果について、市民目線での意見、提案等をいただきながら、現在、「中間評価」を進めているところです。

この「中間評価」の結果や社会経済情勢を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。

また、平成28年度は、倍増プラン計画期間の最終年度となることから、4年間の達成見込みに基づく「最終（見込み）評価」を外部評価により実施します。

(2) 平成26年度達成状況評価

平成26年度実績に基づく内部評価に当たっては、倍増プランの111事業を対象とし、各事業に記載されている「(2) 各年度の目標と取組内容（工程表）」のうち、平成26年度の「各年度の数値目標等」に対する達成状況を対象として、評価を実施しました。「各年度の数値目標等」に定量的な目標が設定されている事業の評価については、110%以上を達成した事業を「A 目標を上回って達成」、90%以上110%未満の達成状況の事業を「B 目標をおおむね達成」、90%未満しか達成できなかった事業を「C 目標を未達成」とする3区分としました。

なお、「C 目標を未達成」と評価した事業については、何が支障となり、どのような対応を行っていくのかを明らかにするため、本報告書に課題と対策を記載しています。

また、評価に当たっては、原則平成27年3月31日時点を基準としました。

表 1 定量的な目標に係る区分

評価	達成度
A 目標を上回って達成	110%以上
B 目標をおおむね達成	90%以上～110%未満
C 目標を未達成	90%未満

(3) 評価結果の概要

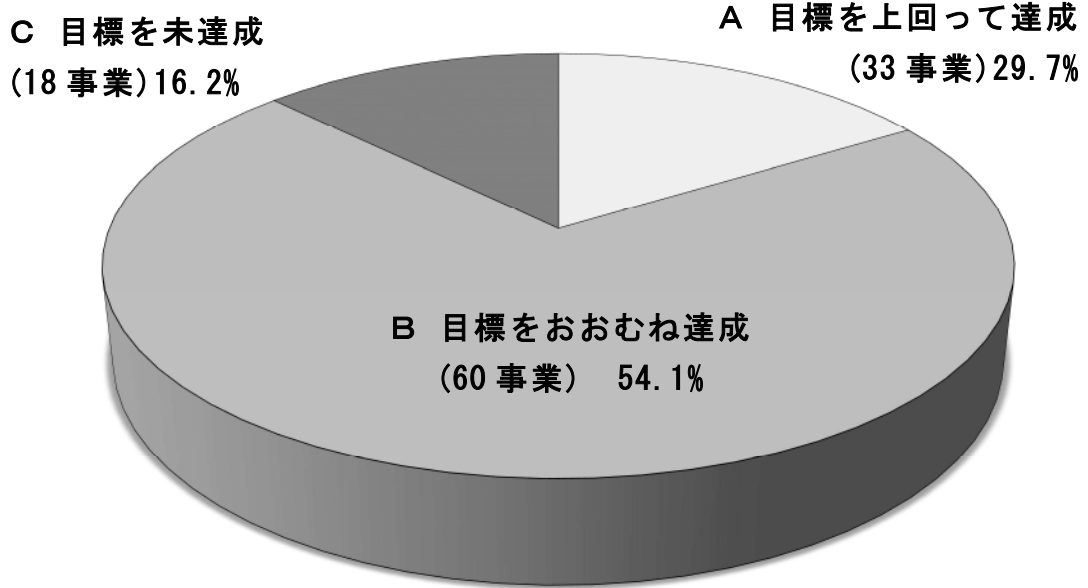
倍増プランの111事業の平成26年度の達成度について評価したところ、33事業が「目標を上回って達成」、60事業が「目標をおおむね達成」、18事業が「目標を未達成」となりました。その結果、「目標を上回って達成」と「目標をおおむね達成」を合わせた「目標を達成」した事業は111事業中93事業となり、割合では83.8%となりました。

分野別では、「1 子どもと親のしあわせ倍増」において8事業が「目標を上回って達成」となり66%を占めたほか、「4 障害者のしあわせ倍増」、「6 健康・医療・福祉」の分野においても「目標を上回って達成」している事業の比率が高い結果となりました。なお「10 まちづくり・コミュニティ」、の分野では、「目標を未達成」となった事業の比率が高い結果となりました。

表 2 平成26年度達成状況

分野	事業数	達成度評価		
		A 目標を上回って達成	B 目標をおおむね達成	C 目標を未達成
1 子どもと親のしあわせ倍増	12	8	4	0
2 若者のしあわせ倍増	4	2	1	1
3 高齢者のしあわせ倍増	8	4	1	3
4 障害者のしあわせ倍増	11	4	6	1
5 日本一の教育都市	8	1	6	1
6 健康・医療・福祉	22	9	12	1
7 文化・芸術	5	0	4	1
8 安全・安心	13	2	9	2
9 自然・環境	16	3	12	1
10 まちづくり・コミュニティ	12	0	5	7
合計 (割合)	111	33 (29.7%)	60 (54.1%)	18 (16.2%)

図1 全体の評価結果



A	目標を上回って達成	33事業 (29.7%)
B	目標をおおむね達成	60事業 (54.1%)
目標を達成		93事業 (83.8%)

図2 分野別の評価結果

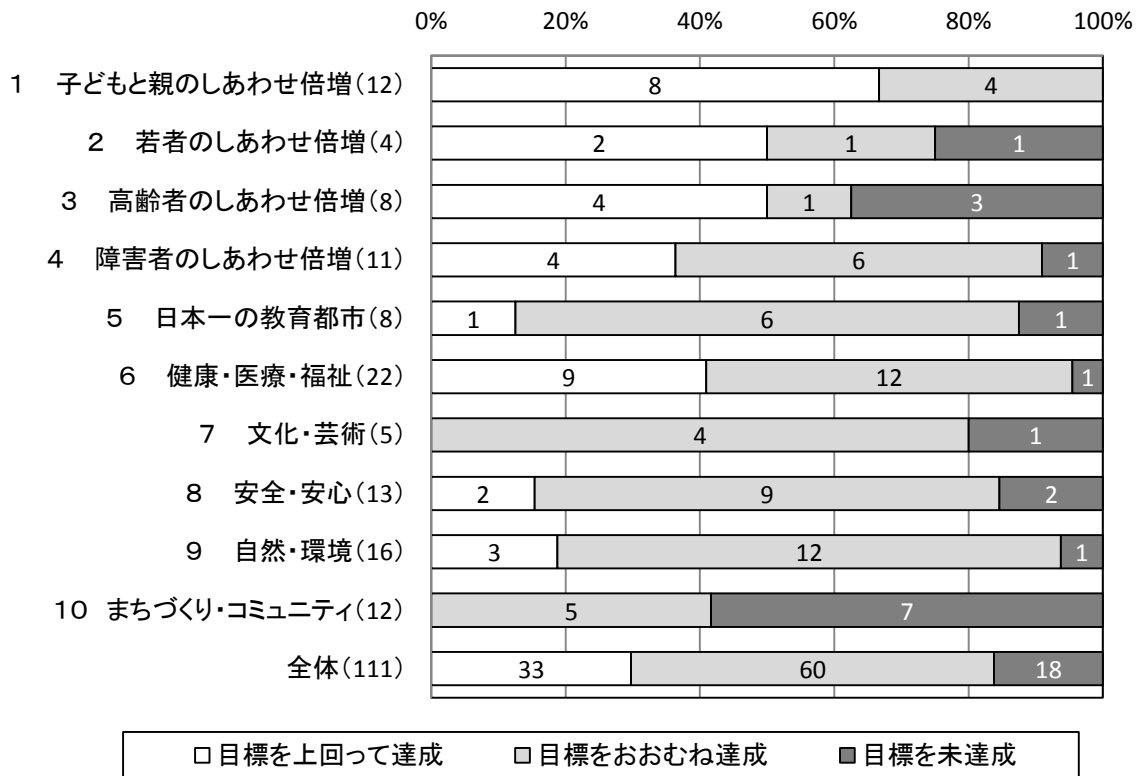


表3 「目標を上回って達成」 事業一覧 【33事業】

No.	事業名	掲載ページ
2-1	認可保育所の増設	7
2-2	放課後児童健全育成事業の充実	7
2-3	保育・幼児教育の推進	7
3-1	保育士・幼稚園教諭体験の拡大	7
3-2	子育てパパ応援プロジェクト事業	7
4-2	女性の再就職支援	8
4-3	女性の起業支援	8
5	ひとり親家庭高等技能訓練促進費・生活支援給付金支給事業	8
7	若者ユースアドバイザーの養成	8
8	地域若者サポートステーションの設置	9
11-1	24時間訪問介護サービスの推進	9
11-2	介護者サロン・カフェの増設	9
13-1	アクティブチケット事業の拡充	10
14	シニアの社会参加を促進する事業の連携強化	10
15	さいたま市障害者就労施設等からの物品等の優先調達の推進	10
16	屋外での移動が困難な障害者のための外出支援	10
17-1	障害者工賃向上プロジェクトの実施	10
17-3	障害者の暮らしを支える住まいの整備	11
25-2	スクールサポートネットワーク（SSN）の拡充	13
28-1	西区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	14

28-2	北区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	14
28-3	大宮区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	14
28-4	見沼区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	14
28-8	南区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	15
28-9	緑区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	15
28-10	岩槻区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	15
34	(仮称)生活保護適正化対策本部の設置	16
35-1	生活困窮者自立支援事業	16
41-3	防災ボランティアコーディネーターの育成活用	18
43	身近な地域の防災拠点への支援	19
47-1	目指せ日本一！サクラサク見沼田んぼプロジェクト	20
47-2	水辺再生・サポート活動の推進	20
49-7	市有施設の屋根貸しによる太陽光発電の推進	21

表4 「目標を未達成」 事業一覧 【18事業】

No.	事業名	掲載ページ
6	青少年の居場所事業（さいたま市若者自立支援ルーム）	8
10	高齢者見守りネットワークの構築	9
12	公認グラウンド・ゴルフ場の整備	9
13-2	シルバーポイント事業（介護ボランティア制度）の拡充	10
20-2	精神障害者に対する支援の拡充	11
21-2	「国際バカロレア」認定に向けた取組の推進	12
26-2	特定健診受診率を60%以上に向上（4年以内）	13
39-2	子ども読書活動推進事業	17
40-1	WHOセーフコミュニティの認証取得	17
41-1	消防団の充実強化に係る事業の推進	18
47-3	高沼用水路の整備	20
52	無電柱化の推進	22
53	身近な公園整備事業	22
55	東日本大震災復興支援を含めた卸売市場活性化事業	23
56-1	自治会加入促進	23
56-2	自治会館の整備促進	23
57	NPO等との協働事業の推進	23
59	空き家、空き店舗を活用した地域コミュニティ活性化	24

2 各事業の達成状況

(1) 子どもと親のしあわせ倍増

1	(仮称)さいたま市子ども総合センターの整備	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		着工準備	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度までの継続事業として建築実施設計を作成しています。 他市・類似施設を調査し、管理運営計画を策定しました。
		評価	理由
		B	平成26年度の目標である着工準備について、建築実施設計が予定どおり進捗しており、施設開設後の管理形態や事業の運営について検討し、管理運営計画を策定したことから、B評価としました。
2-1	認可保育所の増設	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		平成27年4月1日時点での認可保育所定員増810人(前年比)(定員累計14,463人)	認可保育所の新規開設11施設(880人)及び増改築等7施設(229人)により、平成27年4月1日の定員数が前年対比で1,109人増となりました。(定員累計14,764人)
		評価	理由
		A	平成26年度の数値目標である、平成27年4月1日時点での認可保育所定員増810人について、目標を上回る1,109人の定員増を達成できたことからA評価としました。
2-2	放課後児童健全育成事業の充実	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		平成27年4月1日時点での受入可能児童数400人増(12か所)	放課後児童クラブ13か所の新設により、平成27年4月1日の受入可能児童数が前年対比で522人増となりました。
		評価	理由
		A	平成26年度の数値目標である、平成27年4月1日時点での受入可能児童数400人増について、目標を上回る522人の受入可能児童数の増員を行うことができたことからA評価としました。
2-3	保育・幼児教育の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		交流者合計150人以上(実務担当者会の開催、公開保育研究会、小学校体験研修の拡大)	保幼小連携推進実務担当者会、小学校等体験研修、公開保育研究会などの実施により合計180人の交流を行いました。
		評価	理由
		A	平成26年度の数値目標である、保育や教育に携わる者150人以上の交流について、目標を上回る180人の交流を実現できたことからA評価としました。
2-4	保育コンシェルジュの全区配置による保育相談窓口の強化	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		保育所等入所の相談・案内	保育所等の相談・案内を約9,700件実施しました。また認可保育所入所不承諾者に対して追跡調査を行い、市が認定しているナーサリールーム及び家庭保育室への案内を行いました。
		評価	理由
		B	平成26年度の目標である保育所等入所の相談・案内を実施し、追跡調査の上、利用者に対して本市の保育資源を活用することができたことからB評価としました。
3-1	保育士・幼稚園教諭体験の拡大	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		年間参加者数1,770人(累計3,360人)	父親等の子育て参加を推進するため、様々な媒体を活用した情報提供を行うとともに、参加しやすい弾力的な運営を行うことにより、平成26年度の保育士・幼稚園教諭体験への参加は年間参加者数2,751人(累計5,120人)となりました。
		評価	理由
		A	平成26年度の数値目標である、保育士・幼稚園教諭体験年間参加者数1,770人について、目標を上回る年間参加者数2,751人(累計5,120人)となったことからA評価としました。
3-2	子育てパパ応援プロジェクト事業	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		父親向け講座・イベント等の参加者及び父親の施設利用者数 5,500人	<ul style="list-style-type: none"> 父親向け講座・イベント等の実施により、7,062人の父親が施設を利用しました。 さいたまパパ・スクールを開催し、延べ180人が参加しました。
		評価	理由
		A	平成26年度の数値目標である、父親向け講座・イベント等の参加者及び父親の施設利用者数5,500人について、目標を上回る7,242人の参加者及び利用者があったことからA評価としました。

3-3	「親の学習」の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		男性参加者の割合12% (延べ参加者数1,200人)	・生涯学習総合センター及び公民館において、親の学習事業を延べ127回実施するとともに、他の子育て関連事業との組合せによる事業も実施し、延べ参加者数は1,319人となりました。うち男性の延べ参加者数は306人で、男性参加者の割合は23.2%です。 ・講座の進行役を務めるファンリテーターのフォローアップを目的とした研修を実施しました。
		評価	理由
B	平成26年度の数値目標である、男性参加者の割合12%については23.2%となり、延べ参加者数1,200人については1,319人となったことから、B評価としました。		
4-1	ふるさとハローワークの拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		ハローワーク利用者を除くふるさとハローワーク女性利用者総数延べ2,100人	・新規事業として「子育てと仕事の両立相談」、「おしゃべりカフェ」を実施し、延べ154人の女性が利用しました。 ・ふるさとハローワークにおいてキャリア・コンサルティングや内職相談等を実施し、延べ1,820人の女性が利用しました。
		評価	理由
B	平成26年度の数値目標である、ハローワーク利用者を除くふるさとハローワーク女性利用者総数延べ2,100人について、1,974人の女性が利用したことからB評価としました。		
4-2	女性の再就職支援	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		再就職支援事業による就職者の割合5割以上	就業体験等の再就職支援事業を実施し、就職者の割合75%を達成しました。
		評価	理由
A	平成26年度の数値目標である、再就職支援事業による就職者の割合5割以上について、目標を上回る75%を達成したことからA評価としました。		
4-3	女性の起業支援	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		女性による起業数 6件	女性の起業セミナーの実施などにより、女性による起業数14件を達成しました。
		評価	理由
A	平成26年度の数値目標である、女性による起業数6件について、目標を上回る14件の起業があったことからA評価としました。		
5	ひとり親家庭高等技能訓練促進費・生活支援給付金支給事業	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		平成26年度の養成機関修了者の常勤就職・進学率85%	平成26年度養成機関修了者16名のうち、常勤就職・進学者は15名となり、常勤就職・進学率94%を達成しました。
		評価	理由
A	平成26年度の数値目標である、平成26年度の養成機関修了者の常勤就職・進学率85%について、目標を上回る94%を達成できたことから、A評価としました。		

(2) 若者のしあわせ倍増

6	青少年の居場所事業 (さいたま市若者自立支援ルーム)	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		さいたま市若者自立支援ルームの年間利用者数延べ5,800人	平成26年度の年間利用者数は、午前の部延べ1,485人、午後の部延べ2,780人で、合計4,265人となりました。
		評価	理由
		C	平成26年度の数値目標である、さいたま市若者自立支援ルームの年間利用者数延べ5,800人について、実績延べ利用者数が4,265人となり、目標を達成することができなかったため、C評価としました。
課題	困難を抱える子ども・若者については、明確な定義もなく実数や実態の把握も極めて困難であることから、事業の周知も限定的となり、利用者の多くは、各支援機関や相談窓口からの紹介によるものに限られています。		
対策	・各支援機関・相談機関と連携体制を強化し、協力をしながら、アウトリーチ（訪問支援・掘り起こし）の実施などを検討します。 ・リーフレット、ポスター、HPなどの広報活動を強化し、市民への周知徹底を図ります。		
7	若者ユースアドバイザーの養成	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		ユースアドバイザー20人養成	平成27年3月13日に第1回ユースアドバイザー若者支援スキルアップ研修を実施し、受講者29名にユースアドバイザー修了証を授与しました。
		評価	理由
A	平成26年度の数値目標である、ユースアドバイザー20人養成について、目標を上回る29名の受講者が第1回ユースアドバイザー若者支援スキルアップ研修を修了したことからA評価としました。		

8	地域若者サポートステーションの設置	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		若年者就業支援による就職等進路決定者数140人（累計260人）	地域若者サポートステーション事業をはじめとする各種若年者就業支援を実施し、187人の就職等進路決定者数を達成しました。
		評価	評価理由
		A	平成26年度の数値目標である、若年者就業支援による就職等進路決定者数140人について、目標を上回る187人の就職等進路決定者数を達成したことからA評価としました。
9	ひきこもり支援の拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		（仮称）ひきこもりサポーター養成研修を1クール6回を年1回実施し、サポーターを10人養成	平成26年12月にリレートサポーター養成研修を1回開催し、サポーターを10人養成しました。
		評価	評価理由
		B	平成26年度の数値目標である、（仮称）ひきこもりサポーター養成研修の年1回実施とサポーター10人養成について、事業計画に沿って実施することができたことからB評価としました。

(3) 高齢者のしあわせ倍増

10	高齢者見守りネットワークの構築	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		見守りネットワークづくりの推進（360団体[自治会]）	高齢者地域ケアネットワークづくりについて、47地区社会福祉協議会において、合計33地区が見守り活動を実施しました。
		評価	評価理由
		C	平成26年度の数値目標である、見守りネットワークづくりの推進（360団体[自治会]）について、見守り奨励金等の制度の創設ができなかったことから、C評価としました。
		課題	地域及び自治会連合会に対し、誤解や負担感を与えないような制度設計及びその説明をすることが課題となります。
対策	各地域の実情に合わせた見守り体制の構築を進めるため、個別の対応を行うとともに、自治会連合会等に対し制度の説明を丁寧に行います。		
11-1	24時間訪問介護サービスの推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		市内80%の地域にサービス提供される環境を整備	市内90%以上の地域に24時間訪問介護サービスが提供される環境を整備しました。（南区1か所の事業所を開設）
		評価	評価理由
A	平成26年度の数値目標である、市内80%の地域にサービス提供される環境整備について、目標を上回る90%以上の環境を整備することができたことからA評価としました。		
11-2	介護者サロン・カフェの増設	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		介護者サロンの開催（26か所・370回）	・介護者サロンについて、市内のシニアサポートセンター（地域包括支援センター）26か所で合計593回開催しました。 ・介護者カフェについて、提案型公共サービス公民連携制度を利用し、実施に向けての要綱を作成しました。
		評価	評価理由
A	平成26年度の数値目標である、介護者サロンの開催（26か所・370回）について、26か所で合計593回開催することができ、目標を上回って達成できたことからA評価としました。		
12	公認グラウンド・ゴルフ場の整備	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		詳細設計	平成26年8月に地元説明会を開催し、道路や河川などの一体的整備を求める要望を把握しました。これを受け、グラウンド・ゴルフ場用地の周辺環境の整備等に関し、各種調整を行いました。
		評価	評価理由
		C	平成26年度の目標である詳細設計について、その前提となる用地の周辺環境の整備に関する調整に日数を要し、詳細設計に着手できなかったことからC評価としました。
		課題	約2万㎡の現地を整備するには開発許可が必要であり、その許可条件となる幹線道路から現地に至るまでの全区間に9メートルの幅員を確保することが必須となりますが、道路幅員9メートルを確保できていない区間があり、用地買収、水路の付替え及び道路の拡幅工事を実施しないとグラウンド・ゴルフ場の工事に着手できません。
対策	開発許可を要しない1万㎡未満にてグラウンド・ゴルフ場の整備を行います。なお、未整備の用地のあり方については、別途検討します。		

13-1	アクティブチケット事業の拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		利用枚数11,000枚	アクティブチケットについて、チラシの頒布などの宣伝を行い、平成26年度の利用枚数は27,593枚となりました。(利用率33%)		
		評価	理由		
A	平成26年度の数値目標である、アクティブチケットの利用枚数11,000枚について、目標を上回る27,593枚となったことからA評価としました。				
13-2	シルバーポイント事業(介護ボランティア制度)の拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		介護ボランティア制度登録者8,000人	介護ボランティア制度について、平成27年3月31日の制度登録者は、6,612人となりました。		
		評価	理由		
		C	平成26年度の数値目標である、介護ボランティア制度登録者8,000人について、6,612人となり、目標を達成できなかったことからC評価としました。		
		課題	目標を達成するために、制度の周知を積極的に行い登録者数を伸ばします。		
対策	介護ボランティア制度のチラシを、各区役所高齢介護課、生涯学習総合センター、各公民館、支所、市民の窓口、図書館、老人福祉センター及び西楽園で配布していましたが、平成27年度は、チラシを設置するとともに、高齢者が集まるシニアユニバーシティの10月の合同講座でチラシの配布を行います。				
13-3	シルバーポイント事業(長寿応援制度)の拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		長寿応援制度登録者23,400人	長寿応援制度登録者について、平成27年3月31日の制度登録者は、21,407人となりました。		
		評価	理由		
B	平成26年度の数値目標である、長寿応援制度登録者23,400人について、21,407人となり、目標をおおむね達成したことから、B評価としました。				
14	シニアの社会参加を促進する事業の連携強化	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		シニアユニバーシティ学生、大学院学生の、シルバーバンクもしくはシルバー人材センターへの登録50人	シニアユニバーシティの学生、大学院生及び卒業生に対して、シルバーバンク又はシルバー人材センターへの登録について積極的な勧誘を行い、平成26年度の登録者は60人となりました。		
		評価	理由		
A	平成26年度の数値目標である、シニアユニバーシティ学生、大学院学生のシルバーバンクもしくはシルバー人材センターへの登録50人について、目標を上回る60人となったことからA評価としました。				

(4) 障害者のしあわせ倍増

15	さいたま市障害者就労施設等からの物品等の優先調達推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		発注件数19件(前年度の40%増)	調達目標等を定めた調達方針を策定するとともに、各区役所や部局に障害者就労施設等の紹介を行い、契約に結びつけることができたことにより、庁内での調達は49件となりました。
		評価	理由
A	平成26年度の数値目標である、発注件数19件について、目標を上回る49件の調達ができたとことからA評価としました。		
16	屋外での移動が困難な障害者のための外出支援	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		事業所数5か所の整備(累計10か所)	移動支援事業所を10か所増設しました。(新規整備事業所23か所、廃止事業所13か所)
		評価	理由
A	平成26年度の数値目標である、事業所数5か所の整備について、目標を上回る10か所の整備ができたとことからA評価としました。		
17-1	障害者工賃向上プロジェクトの実施	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		平均工賃月額 18,000円	障害者工賃増額モデル事業の実施や商品開発支援の実施、また、障害者就労施設等に対し優先調達を行うことにより、障害者就労施設等の平均工賃月額20,806円を実現しました。
		評価	理由
A	平成26年度の数値目標である、平均工賃月額18,000円について、目標を上回る平均工賃月額20,806円となったことからA評価としました。		

17-2	ユニバーサル就労の実現	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		障害者の一般就労者数170人 (累計330人)	職業訓練や各種講座等、就労後の定期的な相談及びジョブコーチ等による定着支援を行い、障害者の一般就労者数は174人となりました。		
		評 価	評 価 理 由		
B	平成26年度の数値目標である、障害者の一般就労者数170人について、174人となったことからB評価としました。				
17-3	障害者の暮らしを支える住まいの整備	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		グループホーム6人分増設 (累計12人分)	グループホームの定員増について民間法人や国と協議を進め、設置の促進や施設整備費用の助成を行い、定員を24人分増設しました。(累計30人分)		
		評 価	評 価 理 由		
A	平成26年度の数値目標である、グループホーム6人分増設について、目標を上回る24人分増設することができたことからA評価としました。				
18	必要のある学校への特別支援学級の設置	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		平成27年4月に特別支援学級を20校で開設 (特別支援学級設置率約53%)	平成27年4月に、小学校14校及び中学校6校の計20校に、特別支援学級を開設しました。 (特別支援学級設置率59.4%)		
		評 価	評 価 理 由		
B	平成26年度の数値目標である、特別支援学級の20校での開設について、小学校14校及び中学校6校の計20校で開設することができたことから、B評価としました。				
19	ユニバーサルスポーツの推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		ふれあいスポーツ大会及びノーマライゼーションカップ、(仮称)ユニバーサルスポーツフェスティバルへの合計来場者数2,500人	ふれあいスポーツ大会の来場者数818人、ノーマライゼーションカップの来場者数650人、ユニバーサルスポーツフェスティバルの来場者数1,200人となり、合計来場者数が2,668人となりました。		
		評 価	評 価 理 由		
B	平成26年度の数値目標である、ふれあいスポーツ大会及びノーマライゼーションカップ、(仮称)ユニバーサルスポーツフェスティバルへの合計来場者数2,500人について、合計来場者数が2,668人となったことからB評価としました。				
20-1	発達障害者・精神障害者支援の拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		4区における、精神保健福祉に関連した相談や、区役所職員への支援(400件)、同行訪問(100件)	2区(南区・浦和区)において、精神保健福祉に関連した相談や、区役所職員への支援(1,241件)及び同行訪問(165件)を行いました。		
		評 価	評 価 理 由		
B	平成26年度の数値目標である、精神保健福祉に関連した相談や区役所職員への支援について、支援件数が1,241件(うち訪問件数165件)となりましたが、4区における支援には至らなかったことからB評価としました。				
20-2	精神障害者に対する支援の拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		(仮称)精神障害者退院促進支援指針の策定	退院促進支援指針策定に係る作業部会を5回、地域自立支援協議会の専門部会を2回開催し、指針の内容について検討した後、地域自立支援協議会において指針の骨子を決定しました。		
		評 価	評 価 理 由		
		C	平成26年度の目標である、(仮称)精神障害者退院促進支援指針の策定について、策定に係る作業部会や地域自立支援協議会において退院促進支援指針の内容等の検討を行い、指針の骨子を決定しましたが、指針の策定に至らなかったため、C評価としました。		
		課題	地域自立支援協議会地域生活支援部会における指針案の協議において、より充実した内容にするべきとの結論になり、進捗状況に遅れが生じました。		
対策	原稿作成関係機関に対し、指針策定の今後の見通しを提示するとともに、定期的な進捗状況の確認を行います。				
20-3	発達障害者に対する支援の拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		就労準備支援事業をもとに社会参加事業の実施	平成25年度に実施した就労準備支援事業をもとにした社会参加事業「きらめき」を88回実施しました。この社会参加事業には、実人数21人、延べ人数320人が参加しました。		
		評 価	評 価 理 由		
B	平成26年度の目標である、就労準備支援事業をもとにした社会参加事業の実施について、目標どおり実施することができたことからB評価としました。				

20-4	発達障害児支援の拡充	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		<ul style="list-style-type: none"> 保護者向け勉強会の開催（9回） ペアレントトレーニング（1クール11回・8組3グループ）の実施 		<ul style="list-style-type: none"> 保護者向け勉強会を9回開催しました。 ペアレントトレーニングを3グループ（1グループ8組）、全11回実施しました。 		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の数値目標である、保護者向け勉強会の開催等について、目標どおり開催することができたことからB評価としました。			

(5) 日本一の教育都市

21-1	中高一貫教育の拡充	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		基本計画の策定		教育委員会事務局におけるさいたま市立高等学校将来構想検討委員会及びワーキンググループで検討を進め、平成27年2月に、さいたま市立中等教育学校（仮称）に係る基本計画を策定しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の目標である、さいたま市立中等教育学校（仮称）に係る基本計画の策定について、目標どおり策定することができたことからB評価としました。			
21-2	「国際バカロレア」認定に向けた取組の推進	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		導入計画の策定		<ul style="list-style-type: none"> さいたま市国際バカロレア協議会を3回開催しました。 国際バカロレア認定校を1校、候補校を1校視察しました。 さいたま市立中等教育学校（仮称）に係る基本計画の中に、国際バカロレアの認定に向けた取組を位置付けました。 		
		評 価	評 価 理 由			
		C	有識者による協議会を開催し、認定校及び候補校の視察を行うとともに、「さいたま市立中等教育学校（仮称）に係る基本計画」の中に国際バカロレア認定に向けた取組を位置付けることができましたが、平成26年度の目標である導入計画の策定には至らなかったことからC評価としました。			
		課題	「国際バカロレア」認定に向けた導入計画の策定については、研究協議会の開催、国際バカロレア認定校の視察、関係団体との情報交換等を通して、課内で導入計画の検討を行いました。策定までには至りませんでした。			
対策	導入に向けた取組について、ワークショップに参加した教員等の報告や、さいたま市国際バカロレア協議会での意見を踏まえながら、導入計画を策定します。					
22-1	給食室の全校整備	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		給食室3校整備（160校/160校）		平成26年9月に、小学校1校（平成25～26年度継続事業）の給食室整備が完了しました。（158校/160校） なお、残りの小・中学校2校の建設工事については、平成27年5月まで工期を延長しました。（平成25～27年度継続事業）		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の数値目標である給食室3校整備に対し、1校の整備が完了し、残る2校についてもおおむね90%以上工事が進捗していることから、B評価としました。			
22-2	日本一笑顔あふれる給食～地元シェフと地場産物による食育の推進～	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		地元シェフによる学校給食を市立小・中・特別支援学校において20校実施		市立小・中学校20校で「地元シェフによる学校給食」を実施しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の目標どおり、市立小・中学校20校において地元シェフによる学校給食を実施することができたことからB評価としました。			
23	心のサポート推進事業の強化	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		<ul style="list-style-type: none"> 子どもサポート連絡会及びいじめ防止対策推進委員会の設置 子どもサポートネットワークを活用した支援 中学校教員960人をゲートキーパーとして養成 		<ul style="list-style-type: none"> 平成26年5月に子どもサポートチーム連絡会を、7月にさいたま市いじめのない学校づくり推進委員会を設置しました。 子どもサポートネットワークを活用して、15ケースの学校支援を行いました。 中学校教員等903人に対して、ゲートキーパー養成研修を実施しました。 		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の目標どおり、子どもサポートチーム連絡会及びさいたま市いじめのない学校づくり推進委員会の設置、子どもサポートネットワークを活用した支援、ゲートキーパーの養成ができたことからB評価としました。			

24	学校施設リフレッシュ計画の策定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		・学校施設リフレッシュ計画の作成 ・小中学校のトイレの便器洋式化率40%を達成	・平成27年3月に、学校施設リフレッシュ基本計画を策定しました。 ・平成27年3月に、小・中学校のトイレの便器洋式化率40%を達成しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の目標どおり、学校施設リフレッシュ基本計画を策定するとともに、小・中学校のトイレの便器洋式化率40%を達成することができたことからB評価としました。
25-1	チャレンジスクールの拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		チャレンジスクール参加者数延べ175,000人	平成26年度は、チャレンジスクールに延べ172,887人の参加がありました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の数値目標である、チャレンジスクール参加者数延べ175,000人について、延べ172,887人の参加があったことからB評価としました。
25-2	スクールサポートネットワーク（SSN）の拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		学校支援ボランティア数23,100人	市立小・中・特別支援学校において、28,995人の学校支援ボランティアに御協力いただきました。
		評 価	評 価 理 由
		A	平成26年度の数値目標である、学校支援ボランティア数23,100人について、目標を上回る28,995人の方に御協力いただくことができたことからA評価としました。

(6) 健康・医療・福祉

26-1	地域活動団体と協働した生活習慣病予防の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		モデル事業の実施・効果検証	・市民約300人を対象に、平成26年8月から平成27年1月までの6か月間の通信機能付歩数計の携帯、定期的な体組成の測定等による「健幸サポートモデル事業」を実施しました。 ・モデル事業の参加者にアンケートを実施し、参加者の身体活動量と近隣の歩行・運動環境との関連性等の効果検証を行いました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の目標であるモデル事業の実施・効果検証について、目標どおり実施することができたことからB評価としました。
26-2	特定健診受診率を60%に向上	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		特定健康診査受診率48%	平成26年度の特定健康診査受診率（暫定値）は、35.0%です。 （平成27年6月末現在） ※対前年度同月比0.9%上昇
		評 価	評 価 理 由
		C	平成26年度の数値目標である特定健康診査受診率48%について、受診率向上対策として、健診受診者に抽選で賞品をプレゼントする受診キャンペーンや、電話や文書による受診勧奨を実施しましたが、目標を達成することができなかったことからC評価としました。
		課題	特定健診対象者における若年層（40歳代から50歳代）の受診率が低い状況となっています。
対策	・健診受診者に対して抽選でスポーツ観戦チケットや宿泊券等をプレゼントする受診キャンペーンを平成27年度も引き続き実施します。また、協賛企業を増やし、プレゼントの品を充実させることで更なる受診率向上を図ります。 ・電話による受診勧奨を、平成27年度も引き続き実施します。		
27	健康マイレージ制度の創設	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		シルバーポイント制度等との調整、制度設計	・「健幸サポートモデル事業」の結果を踏まえ、市民の健康づくりを支援するシステム構築の方向性を決定しました。 ・シルバーポイント制度は対象年齢が65歳以上であることから、健康マイレージ制度の対象年齢を64歳までとすることで調整を行いました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の目標である、シルバーポイント制度等との調整、制度設計について、目標どおり事業を進めることができたことからB評価としました。

28-1	西区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングイベント参加者数 600人 ウォーキング講習会参加者数 30人 	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングイベント及びウォーキング講習会を開催しました。 ウォーキングイベント参加者数：1,477人 「駅からハイキング」（参加者数：1,416人） 「ウォークラリー大会」（参加者数：61人） ウォーキング講習会参加者数：58人
		評価	評価理由
A	平成26年度の数値目標である、ウォーキングイベント参加者数600人、ウォーキング講習会参加者数30人について、ウォーキングイベント参加者数1,477人、ウォーキング講習会参加者数58人となり、目標を上回ったことからA評価としました。		
28-2	北区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		ウォーキングイベントの参加者50人	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年3月に、北区ウォーキングガイドのコースを活用したウォーキングイベントを開催しました。（参加者数：74人） 平成25年度の目標であったジョギングコースの設定について、平成26年12月に4コースを設定しました。
		評価	評価理由
A	平成26年度の数値目標である、ウォーキングイベントの参加者50人について、参加者数が74人となり、目標を上回ったことからA評価としました。		
28-3	大宮区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		(仮称) 地域資源散策マップのコースを散策するイベント参加者50人	<ul style="list-style-type: none"> 観光ボランティアガイド会の案内のもと、散策マップのコースを巡る散策ツアーを平成27年3月に実施しました。（参加者数：60人） 大宮区推奨ジョギングコースに選定した大宮第三公園内のコースをガイドマップや区報にてPRしました。
		評価	評価理由
A	平成26年度の数値目標である、(仮称) 地域資源散策マップのコースを散策するイベント参加者50人について、参加者数が60人となり目標を上回ったことからA評価としました。		
28-4	見沼区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> 「てくてく見沼」参加者アンケート満足度70%以上 見沼区健康カレッジ参加者75人 	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングイベント「てくてく見沼」を開催し、参加者アンケートを実施しました。（アンケート満足度：100%） 見沼区健康カレッジに替わる教室「アラフォーからのボディレッスン」及び「大人のためのラジオ体操&ウォーキング」を開催しました。（参加者数：106人） 見沼区健康カレッジ同窓会によるコースの活用者 延べ129人
		評価	評価理由
A	平成26年度の数値目標である、「てくてく見沼」参加者アンケート満足度70%、見沼区健康カレッジ参加者75人について、アンケート満足度は100%、見沼区健康カレッジに替わる教室の参加者数は106人となり、目標を上回ったことからA評価としました。		
28-5	中央区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		ウォーキングマップの作成 散策会参加者150人	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングマップを3,000部作成し、区内公共施設等で配布しました。 「バラのまち中央区ふるさとウォーキング」を開催しました。（参加者数：164人）
		評価	評価理由
B	平成26年度の目標である、ウォーキングマップの作成、散策会参加者150人について、目標とおりウォーキングマップを作成し、散策会の参加者数は164人となったことからB評価としました。		
28-6	桜区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> のびのびウォーキング延べ参加者500人 その他ウォーキングイベントでのウォーキング参加者60人 	<ul style="list-style-type: none"> のびのびWalkingを実施しました。（延べ参加者数：1,387人） 平成26年12月に「桜区再発見ウォーキング」を実施しました。（参加者数：56人）
		評価	評価理由
B	平成26年度の数値目標である、のびのびウォーキング延べ参加者500人、その他ウォーキングイベントでのウォーキング参加者60人について、のびのびウォーキング延べ参加者数は1,387人、桜区再発見ウォーキング参加者数は56人となったことからB評価としました。		
28-7	浦和区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		ウォーキングイベントの参加者60人	平成26年11月に「浦和区ぶらり散歩 ～歴史と文化を訪ねて～」を開催しました。（参加者数：61人）
		評価	評価理由
B	平成26年度の目標である、ウォーキングイベントの参加者60人について、参加者数が61人となったことからB評価としました。		

28-8	南区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		・ウォーキング教室の参加者 100人(2団体) ・駅からハイキングの参加者 1,500人	・ウォーキング教室を実施しました。(参加者数合計:281人) ①主催事業 イベント開催数 2回 参加者計 116人 ②共催事業 イベント開催数 1回 参加者計 100人 ③後援事業 イベント開催数 2回 参加者計 65人 ・平成26年10月に「南区駅からハイキング」を開催しました。 (参加者数:1,639人)
		評価	理由
A	平成26年度の数値目標である、ウォーキング教室の参加者100名(2団体)、駅からハイキングの参加者1,500人について、ウォーキング教室の参加者数は281人、駅からハイキングの参加者数は1,639人となり、目標を上回ったことからA評価としました。		
28-9	緑区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		秋の緑区見沼田んぼ散策の参加者300人	秋の緑区見沼田んぼ散策に替わり、「日光御成道ふれあいウォーキング」を開催しました。 (参加者数:764人)
		評価	理由
A	平成26年度の数値目標である、秋の緑区見沼田んぼ散策の参加者300人について、それに替わる「日光御成道ふれあいウォーキング」の参加者が764人となり、目標を上回ったことからA評価としました。		
28-10	岩槻区ウォーキングコース・ジョギングコースの設定	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		ウォーキングコース、ジョギングコースのPR、活用	・ウォーキング・ジョギングコースを区ガイドマップに掲載して配布するとともに、ホームページにて区内外へ広くPRしました。 ・コース紹介パネルを20枚作成し、区内11の公共施設に設置するとともにマップを配架し、区の魅力を発信しました。 ・市民活動団体と協働・連携して健康ウォーキングイベントを開催しました。 (参加者数:約70人)
		評価	理由
A	平成26年度の数値目標等である、ウォーキングコース、ジョギングコースのPR、活用について、目標どおり事業を進めることができたほか、平成28年度に実施予定であった健康ウォーキングイベントを前倒して開催することができたことから、A評価としました。		
29	社会保険大宮総合病院(現JCHOさいたま北部医療センター)の移転存続	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		・市が所有することになる現病院の敷地を貸し付け、新病院完成まで診療を継続 ・新病院開設に向けた協議	・本市が所有する現病院の敷地を独立行政法人地域医療機能推進機構に貸し付け、診療を継続して行っています。 ・新病院建設計画の進捗状況について、随時確認を行いました。
		評価	理由
B	平成26年度の目標である、現病院の敷地の貸付け、新病院完成までの診療の継続及び新病院開設に向けた協議について、目標どおり実施することができたことからB評価としました。		
30	小児・周産期医療の拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		・関係団体との連携、情報共有 ・さいたま赤十字病院への市有地の貸付(新病院建設)	・整備を行うさいたま赤十字病院、埼玉県立小児医療センター、埼玉県、日本赤十字社埼玉支部、関係団体と連携し、整備のための情報を共有しました。 ・さいたま赤十字病院へ市有地を貸し付けました。
		評価	理由
B	平成26年度の目標である、関係団体との連携、情報共有及びさいたま赤十字病院への市有地の貸付について、目標どおり実施することができたことからB評価としました。		
31	市立病院の施設整備事業の推進と救命救急センターの設置	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		基本設計実施	・平成26年8月から平成27年3月にかけて基本設計を実施しました。 ・平成28年度までの人員計画の見直しに基づき、職員定数条例について、職員を56人増員する改正を行いました。
		評価	理由
B	平成26年度の目標である、基本設計実施について、目標どおり実施することができたことからB評価としました。		

		平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
32	さいたま市がん対策基本計画の策定、がん対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・がん対策推進協議会の設置と開催 ・協議会によるがん対策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者及びその家族、医師その他の医療関係者、学識経験のある者、公募による市民等を委員とした「さいたま市がん対策推進協議会」を設置し、平成26年11月に開催しました。 ・この協議会において、本市のがん対策における現状と課題について協議しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の目標である、がん対策推進協議会設置と開催、協議会によるがん対策の検討について、目標どおり実施することができたことからB評価としました。
33	がん検診事業	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		5がんの平均受診率30%	5がん（胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がん）検診の受診率向上のため、全対象者へ個別勧奨はがきを送るなどの取組を行い、平成26年度の平均受診率は29%となりました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成26年度の数値目標である、5がんの平均受診率30%について、目標をおおむね達成できたことからB評価としました。		
34	（仮称）生活保護適正化対策本部の設置	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）生活保護適正化対策本部の開催 ・関係部署の連携による指導・支援の効果として不適切な施設入所者数100人減少（累計200人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年9月及び平成27年2月に、さいたま市生活保護適正化対策本部会議を開催し、生活保護の適正化に向けて庁内連携を図りました。 ・平成27年3月の施設入所者数は、対前年比で204人減少しました。（累計240人）
		評 価	評 価 理 由
A	平成26年度の目標である、（仮称）生活保護適正化対策本部の開催及び不適切な施設入所者数100人減少について、さいたま市生活保護適正化対策本部を開催するとともに、不適切な施設入所者数が204人減少し、目標を上回ったことからA評価としました。		
35-1	生活困窮者自立支援事業	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		生活保護受給者等の就労者数650人（累計1,300人）	就労支援員やキャリアアカウンセラー等の就労支援により、943人を就労に結び付けました。（累計1,757人）
		評 価	評 価 理 由
A	平成26年度の数値目標である、生活保護受給者等の就労者数650人について、目標を上回る943人が就労できたことからA評価としました。		
35-2	ホットラインの設置	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		ホットラインの運用による生活困窮者の早期発見と不正受給の発見 10件	「生活保護ホットライン」の運用により、生活困窮者及び生活保護の不正受給の10件の事案について、早期発見・早期対応を行いました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成26年度の数値目標である、ホットラインの運用による生活困窮者の早期発見と不正受給の発見10件について、目標どおり対応することができたことからB評価としました。		
36	DV防止対策と被害者支援の拡充	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		配偶者暴力相談支援センターの設置	平成26年10月に、配偶者暴力相談支援センターを設置しました。
		評 価	評 価 理 由
B	平成26年度の目標である、配偶者暴力相談支援センターの設置について、目標どおり設置することができたことからB評価としました。		

(7) 文化・芸術

		平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
37	（仮称）さいたまトリエンナーレの開催	開催概要の決定	国・県・市、有識者、文化芸術団体、経済界などで構成する「準備委員会」を設立し、「さいたまトリエンナーレ2016開催計画」を取りまとめました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の目標である、開催概要の決定について、目標どおり「さいたまトリエンナーレ2016開催計画」を取りまとめることができたことからB評価としました。

38-1	盆栽文化の振興	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		年間来館者目標数60,000人 (平成24年度比20%増)	企画展及び特別展を計17回行うとともに、シニアのボランティアガイドを養成しました。また、秋季特別展で講演会を開催し、より幅の広い来館者層を取り込むことができた結果、年間来館者数が平成24年度比約22.6%増、平成25年度比約18.9%増の60,561人となりました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の数値目標である、年間来館者目標数60,000人について、年間来館者数が60,561人となったことからB評価としました。
38-2	(仮称)文化基金の設置	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		基金の設置(条例制定)	平成27年3月に、文化芸術都市創造基金条例を制定し、基金を設置しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の目標である、基金の設置(条例制定)について、目標どおり進めることができたことからB評価としました。
39-1	多様な市民ニーズに応える図書館機能の充実	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		市民一人当たりの貸出数 8.7点	・新たな図書館利用の掘り起こしのため、「ビブリオバトル」、「大人の図書館見学ツアー」等の催し物を実施したほか、ホームページで各図書館における資料展示の取組を紹介しました。 ・平成26年度は、図書館24館で約13万7千点の資料を新たに受け入れ、約989万点の貸出がありました。市民1人当たりの貸出数は、7.8点でした。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の数値目標である、市民一人当たりの貸出数8.7点について、7.8点となったことからB評価としました。
39-2	子ども読書活動推進事業	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		・小学生不読者 3%以下 ・中学生不読者 6%以下	・平成26年度読書についてのアンケート調査の結果、小学生不読者の割合は4.7%、中学生不読者の割合は4.8%となりました。 ・小学生を対象にした読書ラリーを市内24館で実施しました。 ・親子向けの「読み聞かせ応援ガイダンス」を11館で開催しました。 ・中学校12校に、1学級50冊の学級文庫用図書を貸し出しました。
		評 価	評 価 理 由
		C	平成26年度の数値目標である、小学生不読者3%以下、中学生不読者6%以下について、中学生の不読者の割合は4.8%となり、目標を達成できましたが、小学生の不読者の割合は4.7%となり、目標を達成できなかったことからC評価としました。
		課題	小学生の不読者の割合を3%以下にすることを目標値として掲げましたが、4.7%という結果となりました。小学生と保護者を対象とした読書ラリー、応援ガイダンスを実施しましたが、すべての小学生の関心を高めることができず、不読者の割合を目標値まで下げることができませんでした。
対策	・小学生を対象に、自分が読んだ本を記録できる読書手帳を配布し、子どもたちの読書意欲の向上を図ります。 ・学校とより一層連携して、おすすめ児童書リスト「あえるといいいね！すてきな本」の配布と活用を行うことにより、図書館への来館を促すとともに、子どもたちの読書意欲の向上を図ります。		

(8) 安全・安心

40-1	WHOセーフコミュニティの認証取得	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		セーフコミュニティ活動開始の宣言	市自治会連合会理事会において、取組推進について説明し、各区へモデル区選定についての協力依頼をしました。また、様々な地域団体に対して、取組推進について働きかけをしましたが、セーフコミュニティ活動開始宣言には至りませんでした。
		評 価	評 価 理 由
		C	平成26年度の目標である、セーフコミュニティ活動開始の宣言について、取組モデル区の選定には至らず、活動開始宣言を行うことができなかったことから、C評価としました。
		課題	・セーフコミュニティにおける5つの重点項目(①高齢者の安全、②こどもの安全、③自転車の交通安全、④DV対策、⑤自殺対策)に沿って組織化を図る必要があります。 ・セーフコミュニティは、地域の安心・安全に係るデータを収集、分析し、取組に根拠を持たせなければならないため、けがや事故に関するデータ分析を行う組織を作る必要があります。
対策	・セーフコミュニティの取組に賛同していただけるように、取組の効果を明確にし、地域団体等に負担感を与えないよう、既存の取組を活かしながら推進する旨を丁寧に説明していきます。 ・他市の状況を参考に、地域団体等の活動に役立つデータ収集、分析ができる組織を立ち上げます。		

40-2	WHOのインターナショナルセーフスクール認証取得	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		インターナショナルセーフスクール認証取得を目指す学校の決定		・インターナショナルセーフスクールの認証取得を目指す学校をさいたま市立慈恩寺小学校に決定しました。 ・インターナショナルセーフスクール認証センターによる研修会への参加や近隣の先進自治体への視察等により、インターナショナルセーフスクールに関する研究を推進しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の目標である、インターナショナルセーフスクール認証取得を目指す学校の決定について、目標どおり進めることができたことからB評価としました。			
40-3	ASUKAモデルの普及や発信	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		市立小・中・高等・特別支援学校におけるAEDの使用を含む心肺蘇生法の実習100%実施		全ての市立小・中・高等・特別支援学校において、児童生徒にAEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を実施しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の数値目標である、市立小・中・高等・特別支援学校におけるAEDの使用を含む心肺蘇生法の実習100%実施について、目標どおり実施することができたことからB評価としました。			
41-1	消防団の充実強化に係る事業の推進	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		消防団員増員（純増25名）		各種広報活動、処遇改善の取組を行い、入団者77名、退団者70名の純増7名（充足率92.8%）となりました。		
		評 価	評 価 理 由			
		C	平成26年度の数値目標である、消防団員増員（純増25名）について、各種広報活動や処遇改善を実施し、新規入団者は前年度の62名に対し77名に上りましたが、高齢や健康上等の理由により年度末までの退団者が70名となり、純増7名（充足率92.8%）に止まり、目標を達成することができなかったことからC評価としました。			
		課題	・平成26年度については、77名の入団者に対し、退団者が70名となっていることから、入団促進とともに退団者を減らすことが消防団員増員に必要と考えます。 ・在団者及び入団促進のため、更なる消防団員の処遇改善や活動環境の向上が必要と考えます。			
		対策	・高齢の消防団員で、分団長等の重要な役割を担っている方々に、退団という選択から後任に役割を引継ぎ、負担を軽減した形で在団いただくよう調整を図っていきます。 ・在団者及び新規入団者の処遇改善及び資機材・装備の充実など、活動環境の向上を図ります。			
41-2	防災アドバイザーの育成活用	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		避難場所運営訓練への参加率80%		・防災アドバイザーのスキルアップ研修として、平成26年11月に地域で実践するための災害図上訓練(DIG)の講座を実施しました。 ・避難場所運営訓練への参加の呼びかけを行ったことにより、避難場所運営訓練への参加率が78%となりました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の数値目標である、避難場所運営訓練への参加率80%について、参加率78%となったことからB評価としました。			
41-3	防災ボランティアコーディネーターの育成活用	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		災害ボランティアセンター運営訓練への延べ参加率70%		・防災ボランティアコーディネーターのスキルアップ研修として、平成26年10月に、避難場所を想定したロールプレイング形式の実践型研修を実施しました。 ・総合防災訓練において、災害ボランティアセンターの運営訓練の視察・参加を実施し、延べ参加率は86%となりました。		
		評 価	評 価 理 由			
		A	平成26年度の数値目標である、災害ボランティアセンター運営訓練への延べ参加率70%について、目標を上回る延べ参加率86%となったことからA評価としました。			
41-4	中学校での防災教育	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		全ての中学校において、教育課程に位置付けた防災教育と、緊急地震速報を活用した避難訓練		全ての中学校（57校）において、教育課程に位置付けた防災教育と、緊急地震速報を活用した避難訓練を実施しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の目標である、全ての中学校における教育課程に位置付けた防災教育と、緊急地震速報を活用した避難訓練について、目標どおり実施することができたことからB評価としました。			

4 2	高層マンションの自主防災組織等・防災備蓄の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		マンション管理組合に対する防災セミナーの実施（参加者150人）	・平成26年10月に、マンション管理組合を対象とした防災セミナーを開催し、164名が参加しました。 ・マンション特有の防災対策促進のため、防災セミナーやマンションを対象とした出前講座などを通じて、「高層マンション防災ガイドブック」を配布しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の目標である、マンション管理組合に対する防災セミナーの実施（参加者150人）について、目標どおりセミナーを実施し、参加者が164人となったことからB評価としました。
4 3	身近な地域の防災拠点への支援	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		モデル事業として地域の防災拠点を整備（5か所）	モデル事業を実施するための要領を整備し、身近な地域の防災拠点として9か所を登録し、防災備蓄品の貸与を行いました。
		評 価	評 価 理 由
		A	平成26年度の目標である、モデル事業として地域の防災拠点を整備することについて、目標を上回る9か所の整備ができたことからA評価としました。
4 4 - 1	ゾーン30の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		7地区の整備（累計17地区）	平成26年度内に、ゾーン30を市内7地区において整備しました。（累計17地区）
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の数値目標である、ゾーン30の7地区整備について、目標どおり整備することができたことからB評価としました。
4 4 - 2	通学路の安全対策の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		全ての市立小・中学校において通学路の安全点検を実施し、改善の必要な箇所への対策を実施（安全点検実施率100%）	全ての市立小・中学校において通学路の安全点検を行い、対策の必要な箇所については、担当課において路面標示の設置等、交通安全対策を実施しました。また、改善の必要性が高い箇所については、関係機関による合同点検を実施した上で、担当課において交通安全対策を講じました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の目標である、全ての市立小・中学校における通学路の安全点検の実施及び改善の必要な箇所への対策の実施について、目標どおり実施することができたことから、B評価としました。
4 4 - 3	交通安全教育の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		・市立全小学校で「子ども自転車運転免許制度」を実施 ・市立中・高等学校21校でスクエアード・ストレイト技法を用いた交通安全教育を実施	・市立全小学校で「子ども自転車運転免許制度」を実施しました。 ・市立中・高等学校22校でスクエアード・ストレイト技法を用いた交通安全教育を実施しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の目標である、市立全小学校での「子ども自転車運転免許制度」の実施については目標どおり実施し、市立中・高等学校21校でのスクエアード・ストレイト技法を用いた交通安全教育の実施については22校で実施することができたことからB評価としました。
4 4 - 4	交通安全教室開催事業	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		市交通安全教室開催数 210回	市交通安全教室を214回開催しました。 ※内訳：小学生を対象とした交通安全教室 150回 高齢者を対象とした交通安全教室 45回 園児等を対象とした交通安全教室 19回
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の数値目標である、市交通安全教室開催数210回について、214回開催することができたことからB評価としました。

(9) 自然・環境

4 5 - 1	見沼たんぼの総合情報発信基地の整備	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		運営実験	平成26年5月及び10月に、緑区さぎ山記念公園にて「新たな交流の場」運営実験を実施しました。
		評 価	評 価 理 由
		B	平成26年度の目標である、運営実験の実施について、目標どおり実施できたことからB評価としました。

45-2	国指定史跡見沼通船堀の保全	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		見沼通船堀の再整備方針を決定	再整備方針検討のための検討会を3回開催するとともに、実施設計に向けた国・県との協議を行い、見沼通船堀の再整備方針を決定しました。		
		評価	理由		
B	平成26年度の目標である、見沼通船堀の再整備方針の決定について、目標どおり決定することができたことからB評価としました。				
46	新セントラルパーク構想	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		基本構想の改定	総合振興計画等を踏まえ、(仮称)セントラルパーク基本計画を改定しました。		
		評価	理由		
B	平成26年度の目標である、基本構想の改定について、総合振興計画等を踏まえ、(仮称)セントラルパーク基本計画を改定したことから、B評価としました。				
47-1	目指せ日本一！サクラサク見沼たんぼプロジェクト	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		桜の植樹(約800m)	・見沼代用水沿いに0.2km、見沼代用水周辺に1.1km、計1.3km(122本)の植樹を行い、植樹祭を開催しました。 ・プロジェクトへの応援サインプレートを2か所設置しました。 ・ベンチ等の憩いの場を5か所整備、また寄付によりベンチを1か所設置しました。		
		評価	理由		
A	平成26年度の数値目標である、桜の植樹(約800m)について、目標を上回る1.3kmの植樹を行うことができたことから、A評価としました。				
47-2	水辺再生・サポート活動の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		「水辺のサポート制度」の参加者数85人増	平成26年度の参加者数は2,670人となり、平成25年度の参加者数2,094人に対して576人の増加となりました。		
		評価	理由		
A	平成26年度の数値目標である、「水辺のサポート制度」の参加者数85人増について、目標を上回る576人増となったことからA評価としました。				
47-3	高沼用水路の整備	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		約0.6km整備(整備率31%)	・高沼用水路東縁(新中里3丁目付近)及び高沼用水路西縁(鈴谷6丁目付近)における親水型歩行空間約0.6kmの整備について工事に着手しましたが、完成に至りませんでした。 ・市民団体との協議を踏まえながら、平成27年度整備予定箇所の詳細設計を行いました。		
		評価	理由		
		C	平成26年度の数値目標である、約0.6km整備(整備率31%)について、工事に着手しましたが、完成には至らなかったことからC評価としました。		
		課題	市民団体との協働事業として進めているため、詳細設計に際して市民団体との調整に時間を要します。		
対策	早期に市民団体との意見交換を実施するとともに、日頃から市民団体と情報共有を図り、円滑な調整に努めます。				
48	滞在型市民農園と農業交流施設の整備	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		交流施設の基本構想の策定	農業交流施設の開設場所や施設整備に向けた基本的な考え方を整理、検討し、「さいたま市農業交流施設整備基本構想」を策定しました。		
		評価	理由		
B	平成26年度の目標である、交流施設の基本構想の策定について、目標どおり基本構想を策定することができたことからB評価としました。				
49-1	全市立学校のエネルギーセキュリティ確保	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績		
		61校への太陽光発電設備及び蓄電池の設置	市立小学校38校、市立中学校19校、市立高等学校3校、市立特別支援学校1校の計61校に太陽光発電設備及び蓄電池を設置しました。		
		評価	理由		
B	平成26年度の数値目標である、61校への太陽光発電設備及び蓄電池の設置について、目標どおり設置することができたことから、B評価としました。				

49-2	メガソーラー推進事業 ～SUN-SUN Power Project～	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> ・岩槻区川通地区本格稼働 ・新規個所の事業者公募及び発電開始に向けた作業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・岩槻区川通地区メガソーラーが本格稼働しました。 ・緑区間宮地区でのメガソーラー事業の公募を行い、最優秀企画提案事業者を選定し、平成27年度内の稼働に向けて協議を開始しました。
		<p>評 価</p> <p>B</p>	<p>評 価 理 由</p> <p>平成26年度の目標である、岩槻区川通地区本格稼働及び新規個所の事業者公募及び発電開始に向けた作業の実施について、目標どおり事業を進めることができたことからB評価としました。</p>
49-3	市有施設太陽光発電設備設置プロジェクト	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<p>市有施設への太陽光発電設備導入可能性調査の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電設備等の設置を行うため、市有施設の建物現況や日影の影響などの導入可能性調査を73施設において実施しました。 ・中央区役所及び桜区役所への太陽光発電設備設置設計業務を実施しました。
		<p>評 価</p> <p>B</p>	<p>評 価 理 由</p> <p>平成26年度の目標である、市有施設への太陽光発電設備導入可能性調査の実施について、73施設において実施することができたことから、B評価としました。</p>
49-4	環境にやさしい小水力発電の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<ul style="list-style-type: none"> ・尾間木小水力発電稼働 ・深作小水力発電運転開始・稼働 	<ul style="list-style-type: none"> ・尾間木小水力発電設備（年間計画発電量約47万kWh）を引き続き稼働しました。 ・平成26年4月に、新たに深作小水力発電設備（年間計画発電量約43万kWh）の運転を開始し、年間を通じて稼働しました。 ・新規設置が可能な配水場調査を行いました。
		<p>評 価</p> <p>B</p>	<p>評 価 理 由</p> <p>平成26年度の目標である、尾間木小水力発電稼働及び深作小水力発電運転開始・稼働について、目標どおり稼働することができたことからB評価としました。</p>
49-5	新クリーンセンター整備によるごみ発電の促進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<p>施設完成</p>	<p>平成27年3月13日に新クリーンセンター建設工事が完了し、同31日に施設の引渡しを受けた後、平成27年4月1日より桜環境センターとして運用を開始しました。</p>
		<p>評 価</p> <p>B</p>	<p>評 価 理 由</p> <p>平成26年度の目標である、新クリーンセンターの施設完成について、目標どおり建設工事が完了し、施設が完成したことからB評価としました。</p>
49-6	木質等バイオマスエネルギーの普及拡大	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<p>バイオマスエネルギー活用の課題について検討</p>	<p>民間事業者からのバイオマスエネルギー活用についての提案募集、指定都市自然エネルギー協議会への参加、関係各課へのヒアリング等を行い、バイオマスエネルギー活用の先進事例・課題等の調査・検討を行いました。</p>
		<p>評 価</p> <p>B</p>	<p>評 価 理 由</p> <p>平成26年度の目標である、バイオマスエネルギー活用の課題についての検討について、目標どおり事業を進めることができたことからB評価としました。</p>
49-7	市有施設の屋根貸しによる太陽光発電の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<p>屋根貸し事業の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根貸しの対象施設・事業者選定の基準等を決定しました。 ・事業者を公募・決定しました。 ・事業者と設置協議を行い、5施設について基本協定書を締結しました。
		<p>評 価</p> <p>A</p>	<p>評 価 理 由</p> <p>平成26年度の目標である、屋根貸し事業の検討について、対象施設の選定等を行うとともに、平成27年度に取り組む予定であった、事業者の募集、選考・決定についても行うことができたことからA評価としました。</p>
49-8	市民ファンド等の市民参画による再生可能エネルギーの導入促進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		<p>関係機関と課題について検討・協議</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公益目的で利用する施設に対して支援を行う場合の課題を整理しました。 ・他自治体の取組事例を調査し、本市における最適な支援内容や手法等について検討・協議を行いました。
		<p>評 価</p> <p>B</p>	<p>評 価 理 由</p> <p>平成26年度の目標である、関係機関との課題についての検討・協議について、目標どおり行うことができたことからB評価としました。</p>

50	環境センターからサマールエネルギーセンターへ！ ～西部環境センターと東部環境センターの統廃合～	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		統廃合施設の基本計画を策定		<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合施設の基本計画を策定しました。 ・環境に与える影響について評価するため、計画書に基づき秋季、冬季分の現況調査を行いました。 		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の目標である、統廃合施設の基本計画の策定について、目標どおり策定することができたことからB評価としました。			

(10) まちづくり・コミュニティ

51	暮らしの道路、スマイルロードの整備推進	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		150件の整備（累計270件）		暮らしの道路整備事業、スマイルロード整備事業を合わせて年間148件整備しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の目標である、暮らしの道路、スマイルロード150件の整備について、148件整備することができたことからB評価としました。			

52	無電柱化の推進	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		電線共同溝0.5km整備		事業を実施するための国からの交付金が4割削減されたことにより、電線共同溝の整備を平成27年度に見送りました。		
		評 価	評 価 理 由			
		C	平成26年度の数値目標である、電線共同溝0.5km整備について、事業に対する理解をいただく地元説明会を実施しましたが、国からの交付金の削減に伴い整備を見送ったことからC評価としました。			
		課題	限られた財源の中で事業を推進するために、国庫補助金等の活用をしていますが、全国的にも国の補助金や交付金の内示が100%いただけない状況になっています。			
		対策	無電柱化事業をはじめとした各事業において、最大限事業効果が得られるように、真に必要な事業の選択と集中をしていくとともに、国とも綿密に調整しながら鋭意事業を進めてまいります。			

53	身近な公園整備事業	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		公園6か所開設（累計11か所）		円阿弥ふれあい公園・桜丘ふれあい公園・愛宕ふれあい広場の3か所を整備し、開設しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		C	平成26年度の数値目標である、公園6か所開設について、予定どおり公園整備に着手しましたが、地元関係者との調整の遅れや工事スケジュールの遅れにより、3か所については年度内の開設ができなかったことからC評価としました。			
		課題	都市公園の設計に当たり、地元自治会等関係者と意見交換して行うことが一般的ですが、導入する機能等に関して地元の合意形成を得ることに時間を要するケースが多くなっており、その結果、整備工事の発注時期が遅延してしまうことも多くなっています。			
		対策	実施設計に先立ち、公園の整備方針及び公園に導入できる機能（若しくはできない機能）について地元住民に対して説明をした上で、地元で意見集約を図っていただくことにより、設計期間の短縮が可能となります。			

54	駅のバリアフリー化の促進	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		バリアフリー設備整備率 93.9%（31駅／33駅）		<ul style="list-style-type: none"> ・東大宮駅東口改札外エレベーターを整備、供用開始しました。 ・岩槻駅改札内エレベーターの一部供用を開始しました。 ・今羽駅及び東宮原駅改札内エレベーター整備に着手しました。 ・南浦和駅西口改札外エレベーター整備に着手しました。 ※バリアフリー設備整備率 84.8%（28駅／33駅）		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の数値目標である、バリアフリー設備整備率93.9%について、目標をおおむね達成できたことからB評価としました。			

55	東日本大震災復興支援を含めた卸売市場活性化事業	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		復興支援物販イベントの定期的実施（年間12回）	大宮市場において、東北地方の水産・農産物を販売する復興支援イベントを年4回開催しました。
		評価	評価理由
		C	平成26年度の目標である、復興支援物販イベントの定期的実施（年間12回）について、計4回のイベント開催となり、目標を達成できなかったことからC評価としました。
		課題	大宮市場における年間のイベント開催が年4回と決まっているため、それ以外の月に開催することができませんでした。
対策	大規模イベントの開催数増については、市場の準備や経費の負担が大きく、市場内の経済活動に影響がでるためできません。ただし、毎週土曜日が市場の一般開放日となっているため、その機会を利用し、日常的に復興支援が根付くよう実施主体に対し小規模の復興支援物販イベント開催を促していきます。		
56-1	自治会加入促進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		自治会加入世帯数2,000世帯増（累計3,500世帯増）	自治会加入世帯は、948世帯増えました。（累計4,261世帯増）
		評価	評価理由
		C	平成26年度の数値目標である、自治会加入世帯数2,000世帯増について、948世帯増にとどまり、累計では計画目標数値を上回っているものの、平成26年度の単年度目標を下回ったことから、C評価としました。
		課題	平成26年度に自治会加入世帯数が増となった自治会は246自治会で、4,092世帯増となりますが、自治会を退会し前年度の世帯数より減となっている自治会数は273自治会で、3,144世帯減となっています。自治会を退会させないよう、魅力ある自治会運営が必要です。
対策	現行の加入促進施策を引き続き実施するとともに、転居時に自治会への加入を促すため、宅地建物取引業協会との協力体制を構築するための協定を締結します。また、自治会を退会させないようにするため、他市の取組等について情報収集し、対策等の検討を行います。		
56-2	自治会館の整備促進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		自治会集会所整備数35件（累計70件）	自治会集会所を24件整備しました。 ※内訳：建設4件 増改築修繕20件 （平成25年度からの累計整備数59件）
		評価	評価理由
		C	平成26年度の数値目標である、自治会集会所整備数35件について、24件整備しましたが、目標を下回ったことからC評価としました。
		課題	・自治会館の整備に当たっては、自治会の「資金の確保」「住民の合意」「建設用地の確保」が整っていることが必要であり、長期的視点に立った計画・準備を要します。 ・前年度に自治会に整備計画の有無を確認し、要望に応えられるよう準備していますが、前記の理由等により自治会から辞退の申し出を受けることがあります。 ・新築による整備だけではなく、集会所を増やせるような新たな施策を講じる必要があります。
対策	現行の施策に加え、借家による自治会館に対する支援制度を早期に創設し、自治会館の保有を容易にすることで目標の達成を図ります。		
57	NPO等との協働事業の推進	平成26年度の数値目標等	平成26年度の実績
		マッチングファンド制度による助成事業の実施（6事業）	・5事業の実施予定でしたが、実施に至らなかった事業があり、3事業のみを実施しました。 ・年間を通じて協働をコーディネートする「協働のテーブル」を1回開催しました。
		評価	評価理由
		C	平成26年度の数値目標である、マッチングファンド制度による助成事業の実施（6事業）について、3事業の実施となり、目標を達成することができなかったことからC評価としました。
		課題	・寄附や無償の労力の提供を通して多くの市民が市民活動に参加できる環境づくりとして市民活動と協働の推進基金を設立し、その基金を原資に助成制度を実施していますが、制度の認知度や理解度が不足しており、実施事業数が増えません。 ・「協働のテーブル」制度を開始しましたが、あまり活用されていません。
対策	・これまで実施してきた、パンフレット等の印刷物の作成や市民活動サポートセンターのホームページやメールマガジン等による情報提供に加え、同センターによるイベント等に合わせて、キャンペーン期間を設定し、集中的に情報を発信することで、制度の認知度や理解度を高めます。また、NPO等に対しアンケート調査等を行い、ニーズを把握するとともに、応募しやすい制度となるよう検討します。 ・事業の掘り起こしを強化するために、市民活動サポートセンターと協力し、相談の分野を指定した募集期間を設定するなど、相談のきっかけづくりを充実させます。		

58	マンション管理組合への支援の拡充	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		マンション訪問数19団地		旧耐震設計基準以前（昭和46年以前）のマンション20団地を訪問し、ヒアリング等による調査及び管理組合への支援施策の情報提供を実施しました。		
		評 価	評 価 理 由			
		B	平成26年度の数値目標である、マンション訪問数19団地について、20団地を訪問することができたことからB評価としました。			
59	空き家、空き店舗を活用した地域コミュニティ活性化	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		制度の周知		商店街空き店舗情報の収集や事業者へのヒアリングを実施し、新たな制度の概要をまとめました。		
		評 価	評 価 理 由			
		C	平成26年度の目標である制度の周知について、制度設計まで至らず、周知できなかったことからC評価としました。			
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活用できる空き店舗情報の把握は極めて限定的です。また、主要駅周辺の空き店舗は賃料が高く、次の事業者が比較的早く決まります。郊外の空き店舗は、事業採算性に問題のあるケースが多くなっています。 ・コミュニティを活性化する団体の事業は、採算が大きく見込めない状況です。 			
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・宅建協会による空き店舗情報や商店会と連携した空き店舗情報の収集などに努めます。 ・空き店舗と事業者のマッチングを促せる情報を整えるため、詳細な現地調査などを実施します。 					
60-1	(仮称)アーバンデザインセンターみその設置	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		(仮称)アーバンデザインセンターみその機能決定		(仮称)アーバンデザインセンターみその主な機能や施設設置の方針等をまとめた基本構想を作成しました。		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成26年度の目標である、(仮称)アーバンデザインセンターみその機能決定について、目標どおり事業を進めることができたことからB評価としました。					
60-2	(仮称)アーバンデザインセンター大宮の設置	平成26年度の数値目標等		平成26年度の実績		
		「情報発信の場」の設置		<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり団体等の「民」が中心になり、平成26年7月に、模型やパネル等の展示による情報発信の場「まちラボおおみや」を設置しました。 ・情報発信の場を活性化させるため、学識経験者による講演会や市の事業に対する意見交換会を行いました。 		
		評 価	評 価 理 由			
B	平成26年度の目標である、「情報発信の場」の設置について、平成26年7月に開設し、各種情報発信を行うことができたことからB評価としました。					

しあわせ倍増プラン2013 平成26年度達成状況報告書（内部評価）

発行年月 平成27年9月
編集発行 さいたま市都市戦略本部都市経営戦略部
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
電話：048(829)1064 FAX：048(829)1997
E-Mail：toshi-keiei@city.saitama.lg.jp